

神奈川県立近代美術館建設の流れ

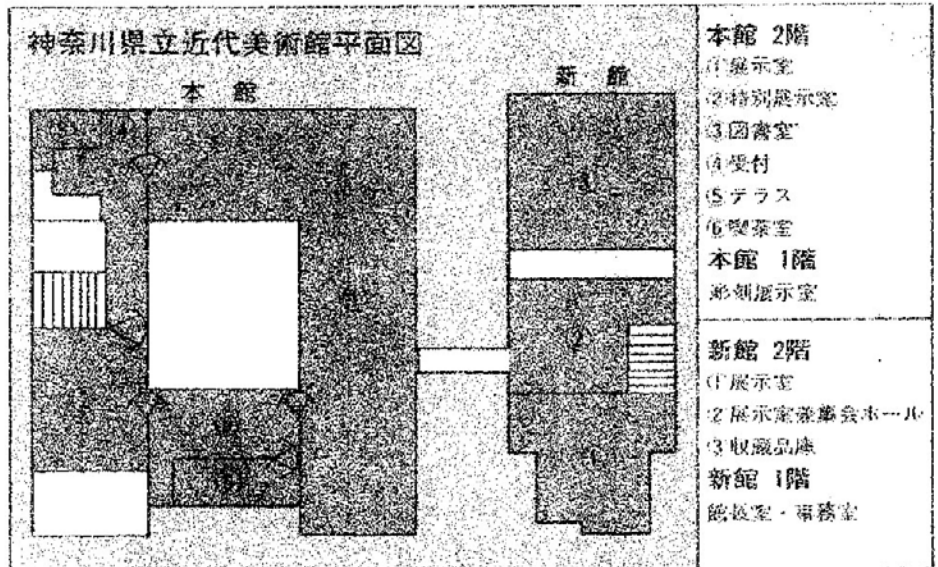
- 1946(s21) 内山岩太郎神奈川県知事に就任 (元外交官 S22 公選 S26再選)
- 1949(s24) 日本貿易博覧会開催
- 1950(s25) 近代美術館設立準備委員会発足
文化財保護法公布 朝鮮戦争
- 1951(s26) 神奈川県立近代美術館開館 11/18～ /30「セザンヌ・ルノワール展」
(館長村田良策 副館長土方定一47歳) マッカーサー解任帰国
- 1952(s27) 国立近代美術館開館
- 1953(s28) NHK TV放送開始
- 1954(s29) 神奈川県立図書館・音楽堂開館、美術評論家連盟結成
- 1955(s30) 県文化財に鶴岡八幡宮、県史跡に段葛、県天然記念物に大イチョウ指定
- 1965(s40) 神奈川県立近代美術館長土方定一 (61歳)
- 1966(s41) 古都における歴史的風土の保全に関する特別措置法
神奈川県立近代美術館新館増築 (展示場兼ホールと収蔵庫)
- 1967(s42) 神奈川県知事津田文吾就任、神奈川県立博物館開館 (旧横浜正金銀行)
- 1973(s48) 都市緑地保全法公布
- 1974(s49) 横浜市教育文化センターホール開館
- 1975(S50) 神奈川県知事長洲一二就任、神奈川県民ホール開館
- 1979(s54) 文化のための1%システム実施
- 1980(s55) 土方定一死去 (76歳)
- 1981(s56) 館長匠秀夫、副館長弦田平八郎
- 1984(s59) 神奈川県立近代美術館別館開館 (収蔵作品の常設展示場と収蔵庫)
館長弦田平八郎 (歴代館長酒井忠康, 山梨俊夫, 水沢 勉)
- 2003(H15) 10月神奈川県立近代美術館葉山館開館 PFI方式

PETER BRUEGEL l'ancien



今迄の日本の美術界の中心
ペーブル・ブリューゲル 展

3月18日 4月16日
神奈川県立近代美術館



美術館運営の課題

1 神奈川県立近代美術館の建設の経緯

- *美術団体と美術家等の動向 … 美術館建設の要望
- *神奈川県美術懇話会設立（有島生馬、鏑木清方、佐藤敬、中村岳陵、前田青邨、木下孝則、小山富士夫、矢代幸雄、吉川逸治、村田良策、土方定一ら33名が協議し社会教育機関としての美術館、国内外の近代・現代美術を世に問う美術館建設を要望）
- *近代美術館設立準備委員会発足（安井曾太郎、高間惣七、佐藤敬、土方定一、村田良策、吉川逸治）知事が提唱
- *設計はコンペ（坂倉準三、前川国男、山下寿郎、谷口吉郎、吉村順三）

○鎌倉鶴岡八幡宮が敷地内の源平池の一部が国有地となっていた所を国から返還してもらうことを条件に、美術館敷地として無償で貸すとの申し出により建設地となる。
（当初は横浜貿易博覧会の観光館転用や横浜の中心部の土地が候補であった）

2 作品展示と収集

○「近代美術館は海外の近代美術の紹介、また近代日本の美術史のなかで不遇のうちに埋もれていた巨匠の発掘と組織的な紹介、また埋もれていたとはいえないが、これまで部分的に知られていた巨匠の、これまた系統的な紹介をなし近代日本の現在からの再組織に精力的に取り組んできた」『神奈川県美術風土記』全4冊 有隣堂刊

*開設当時1951(S26)年の作品購入費は0円であった。

学芸員の研究心と努力＝「近代日本美術史に明確な視野を持った体系作り」
体系を作品によって展示する日本で初めて企画展を次々に開催し、作家の遺族、作家の好意によって無償、あるいは無償に等しい僅かなお礼で、その作家の傑作を譲り受けてきた。また作品の劣化防止等の観点から寄託も進めてきた。

…主な寄贈作品…

- ・松本峻介の油彩、デッサン
- ・鳥海青児の油彩、デッサン
- ・山口蓬春の古画の模写、蔵書
- ・片岡球子の「面構」シリーズ
- ・原三溪の番頭の子息から院展の巨匠の下絵
- ・岡鹿之助のルドン石版画

○地方とは？何でも東京中心の意識

神奈川県立近代美術館の活動と報道機関

鎌倉近代美術館 The Museum of Modern Art, Kamakura

3 美術館ブーム

○公立美術館の建設と作品収集

- *収集方針は県出身、県にゆかりのある作家の作品中心に
- *美術館建設の計画と同時に展示作品の購入を開始している（寄贈）

- * ガラを作ればあとは何とかなる風潮～著名作家の作品購入（目玉）
- * 海外の作家の作品を何億円もの金額で購入（新設の公立美術館）
- * 美術館の性格を作るため名作を買い所蔵作品を豊かにするが、近代日本美術史の名作は所蔵家が売却を好まず市場にでることは殆どない。
- * ヨーロッパの美術作品は数千万で入手可能…日本の画商がオークションで？
- * 購入予算とは別途に購入基金（数億単位）を設置

○私立美術館と公立美術館

ブリジストン美術館、ひろしま美術館、大原美術館 …桁違いの購入金額

- 東京国立近代美術館…当初は文部省が奨励の意味で買い上げた作品を保管転換されたものが殆どであった。外部から作品を借用し企画展を積極的に開催した。

常設展示を始めるようになったのは竹橋に新築移転（昭和44年）した時である。

○山梨県立美術館 1978(S53)年

開館準備段階から併行し作品収集を開始、億単位の金を投じミレーやムアの作品を購入、開館と同時に公開（ガラより中身）多数の入館者

（その後の県立美術館は、購入のための基金制度を設け何十億もの基金を用意し作品の収集をするのが常となってきた）

○東京都美術館（大正15年）

戦前から各種美術団体の発表の場としての公募展会場として運営されてきた。

1975(S50)新美術館竣工（20世紀美術の収集、展示、研究教育活動を行う現代美術館としての機能か加わった）

4 公立美術館の課題（県立→区立→市立→町立）

本来専門の施設を持ち優れた資料を収集し、専門の学芸員が施設運営に当たり多くの人々の情操を高めていくところに目的がある。

- 美術館建設の動機は、地元美術家の要望から動く場合が多いが、美術家や美術団体は展示スペースをどう確保するか「美術館の在り方」をめぐる問題となる（地域社会）
- 時代と共に進化する美術館（学芸員の質と育成、国際感覚、美術館の理念、美術館運営と維持管理、美術館法？ …）

5 全国美術館会議と美術館連絡協議会

全国の公立及び私立美術館が加盟（連絡、情報交換等）……美術館会議

各県立美術館を中心に公立美術館で組織（事業主体）……連絡協議会

展覧会の企画を決定し希望館を巡回、学芸員の海外研修

○学芸員の活躍

匠 秀夫 弦田平八郎 酒井忠康 山梨俊夫 水沢 勉 足立 朗 原田 光
 青木 茂 朝日 晃 井関正昭 大河内菊雄 太田泰人 陰里哲郎 佐々木静一
 橋 秀文 副島三喜男 前田富士男 柳生不二雄…